

2015年  
入試用

# 学校説明会レポート



## 逗子開成中学校

日時	2014年6月3日（火）10時30分～12時00分
所在地	逗子市
会場	サイエンスホール
対象	塾
出席者数	約60名
配付資料	プリント「2015年度入試に向けて」、2014年度入試データ、2015年学校案内、過去問題、式次第など

### 説明会の概要

#### あいさつ

高橋校長先生 10：30～10：45

- 東京の開成中の分校として、1903年に開設されました。校名は中国の古典「易経」にある「開物成語」に由来しています。
- 1986年に中学を再開し、2003年に完全中高一貫の学校になりました。
- これから目指すものとして、①授業改革。生徒一人ひとりが自主的に学習するよう図り、変化していく大学受験にも対応できる指導を行っていきます。②体験的な活動の充実。海洋教育や環境教育をさらに進め、数学オリンピックなど外部のコンクールにも参加できる体制を整えていきます。③国際交流。留学制度をより充実させたいと考えています。

#### 進学指導

進学指導部長 五十嵐先生 10：45～10：55

- 進学実績の向上を目指し、目安として「東大合格二桁」という目標を掲げています。2013年春の入試では東大合格14名という素晴らしい成果が出ました。2014年春は、東大の合格は前年より減りましたが、国公立大学全体では91名が合格しており、2013年と同じような結果が出ています。
- 「学習の手引き」を配布していて、これは授業の受け方やノートの取り方へのアドバイスなどのほか、スケジュール管理もできる手帳です。各学年で違う内容となっており、担任の先生が定期的に回収して生徒とのコミュニケーションに役立てています。

## 入試について

入試委員長 小西先生 10：55～11：10

### 《2014年入試の分析》

- 特徴としては志願者が増えたこと。東日本大震災のあった2011年以前の人数に戻ったということです。海に近い学校なので、しばらくは津波などへの心配があったようです。実際の動きとしては、①志願者の居住地域が広がりました。特に、都内や川崎地区、センター北・南、東横線沿線、大田区などで増えました。武蔵小杉の駅を上手に利用している生徒がいるようです。②3次入試の人数は年々減っていましたが、2014年は志願者・受験者が多かったことに加え、実受験率も76.24%と高くなりました。志願者が増えた原因はほかに、大学の進学実績が好調なこともあると思われます。
- 合格は、例年、人数で決めるのではなく、成績で判定しています。その結果のボーダーラインは、2014年入試は320点前後、得点率では65%くらいでした。
- 本校では、1学年の人数を280名としてクラス編成を行っています。2015年も変更なしの予定です。

### 《2015年入試》

- 【変更点】 中学入試→（なし）
- 日程は2014年と変更ありません。帰国生入試は2015年1月9日です。
- 入試要項は、9月1日から配布します。帰国生は7月28日の説明会から配布します。
- 複数回受験の優遇についてよく聞かれますが、本校では優遇制度はなく、それぞれの回ごとに合否を決めます。ボーダーでの優遇などを設けていない理由としては、例えば1次入試でボーダー付近にいて不合格になった生徒が2次入試では高得点で合格するというように、3回の入試でそれぞれの生徒の位置がバラバラになっているためです。バラつくのは、記述式の問題が多いいためかもしれません。

## 国語

宮崎先生 11：10～11：25

- 問題構成は大問3題で、大問1は漢字など、大問2は説明的文章、大問3が文学的文章です。問題文の字数は、これまで、大問2が2,000～2,500字程度、大問3が2500字を超えることもある、としてきましたが、じっくり考えて解いてほしいので、2015年は2,000字近くまで少なくする予定です。
- 本校では、女性作家や年配の筆者による文章も出題されています。そのような、自分と違う立場の人間の気持ちや状況を理解するためには、日頃からさまざまなことに興味を持ち、広い視点を持つるようにしておくことが大切です。
- 正答率について。大問1は小問数が25問程度と多く、これまで正答率も高いので、確実に得点に結びつけることが重要です。説明的文章と文学的文章は、正答率に開きが出る

ことが多いのですが、2014年は、その差が少なかったようです。

- 記述問題にせよ、選択肢の問題にせよ、狭い範囲の文から判断したり思いこみで答えたりするのではなく、問題文全体をよく読んで答を出すことが大切です。記述の場合、自分の言葉でまとめなければならない場合に問題文をそっくり抜き出すのは間違います。字数制限にも注意してください。
- 語句や漢字など基本的な力につけておくことが大事です。語彙力を重視しています。

### 算数

石渡先生 11:25~11:35

- 問題構成は大問5題で、2015年も変更ありません。
- 大問1の全問正答率は、これまで70%前後のこと多多かったのですが、2014年の2次入試大問1は、小問それぞれの正答率は高いのに、3問全部での正答率は39.1%と低くなりました。各問によって正答者が入れ替わったと思われます。3次入試の大問1も全問正答率が低めで、61.4%でした。
- 記述問題は、自分なりの考え方が明記されている必要があります。2014年1次大問5第3問は、場合分けが何パターンか存在するので、自分はどのような場合分けをしたかの説明が要りました。2次入試の大問5第2問は、式のみが書かれていて説明のない解答があり、減点となりました。この問題では、「周期性がある」とか「繰り返しがあるので」というような説明が必要でした。
- 単位の見落とし、分数の表記などの単純なミスを防ぐために、問題文をよく読む習慣をつけてください。

### 社会

小和田先生 11:35~11:50

- 全設問数はこれまで50~65問程でしたが、最近は60問前後のことが多いです。
- 歴史の問題では、「文化史」の得点が低い傾向があり、2014年にもそれが言えました。歴史上の出来事は、単純に一つひとつの年号を覚えるのではなく、流れで理解しておくことが大事です。
- 地理では、2次入試の大問1で山地名の問題が出ましたが、問題文のほかの部分をよく読み、関係を読み取る必要がありました。
- 公民は、本校では憲法の問題が必ず出ますので、過去問を見ておいてください。
- 記述問題の採点について。2014年の2次入試で、参勤交代に関する問題が出ました。5点満点のところ、満点を取れた受験生は21.5%で、それを除いた36%以上が部分点のみとなりました。部分点は、1点・2点まで細かくつけています。
- 本校は、分野に関わらず漢字指定がほとんどです。日頃から漢字で書く練習をしておきましょう。最近の傾向として、なぜか、ひとりの受験生が同じ漢字をある問題では正しく、他の問題では間違えて書くという現象が起こっています。漢字そのものを正しく覚えてください。

## 理科 大津留先生 11:50~12:00

- 「読解力」・「表現力」・「計算力」のほか、道筋を自分なりに考えて解ける能力として、「構成力」を見たいと考えています。
- 物理・化学・生物・地学の4分野から偏りなく出題します。ほぼ25点ずつの配点です。
- 記述問題もあり、2014年は6割程度が記述の問題でした。
- 各分野の正答率から見ると、2014年の受験生は地学にてこずったようです。前年の2013年に点数が低かったのは物理でした。
- 合否を左右したとみられる科目を入試別に見ると、1次入試が地学、2次入試が化学、3次入試も化学だったようです。
- 解き始める際に、ざっと方針を立てる、あるいは大まかなグラフを描くといった段階を踏むことが重要です。これができるれば、後の計算が違ってもその間違いを見つけられる場合があります。
- 2次入試の水温のグラフでは、水の沸点100°Cを忘れて、100°Cを超えているものが21%ありました。
- 実験器具の取り扱いがよくわかっていない受験生が多かったようです。
- 記述問題の採点基準には、キーワードが書かれているか、あります。文中の誤字脱字は減点対象ですが、キーワードそのものが誤字の場合は点数が与えられません。2014年は、蒸発の「蒸」が書いていませんでした。

## 説明会の雰囲気・印象

- 入試問題の情報に多くの時間が割かれ、熱気のある説明会でした。終了後は名刺交換の長い列ができました。

## 学校周辺の環境

- 商店の立ち並ぶ逗子銀座通りを抜けると、落ち着いた住宅街が続いています。校門から歩いてすぐのところに波静かな逗子湾があります。

## 交通

- JR横須賀線 逗子駅から徒歩12分  
京急逗子線 新逗子駅から徒歩12分